

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

只見町長 渡部 勇夫

市町村名 (市町村コード)	只見町 (07367)
地域名 (地域内農業集落名)	小川地区 (小川)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年9月25日 (第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・小川地区は、昭和62年度に小川地区、昭和63年度に荒井原地区、平成元年度に肘折地区で基盤整備実施済みで、中心経営体となる担い手への集積が進んでいる。
 ・地区内の高齢化率は53.5%と高く、後継者不足により離農者が増加しており、個人管理している畑は今後10年間で遊休農地が拡大すると予想されるため、地域として守るべき農地の見極めが必要である。
 ・クマ、イノシシ等の有害鳥獣による農作物の被害が増えているため、被害防止対策も課題である。

(2) 地域における農業の将来の在り方

・区域内は水稻栽培、トマト栽培、アスパラ栽培が行われており、主食用米の高付加価値化、飼料用米や畑地化等への転換による高収益作物に関する情報収集等、地域と行政が一体となり、農家への支援及び農地の新たな活用方法を検討していく。
 ・担い手への集積・集約化を進め、分散作圃を解消する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	44.9 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	30.8 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

・農業振興地域の農地及びその周辺の農地を、農業上の利用が行われる農用地等の区域とする。
 ・将来の耕作者が決まらない、保全・管理等が行われている農地については、具体的な取組が計画されるまで検討中とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心とした担い手への農地集積を進め、団地面積の拡大を図る。
(2)農地中間管理機構の活用方針
・将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は原則農地中間管理機構に貸付けていく。 ・担い手が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、農地中間管理機構を通じて担い手への貸付けを進めていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
大部分が基盤整備実施済みであるため、老朽化している用排水施設等の改修を進め、生産性向上を図っていく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
新規就農者の確保に努め、町・県・JAと相談体制を確立し、地域農業の担い手を育成する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
必要に応じて、今後検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①イノシシ、クマ等の鳥獣による農作物の被害が拡大しているため、町、猟友会等関係団体と一体となって被害対策を進める。